防災

意見
○平成21年6月までに設置義務がある住宅用火災報知器について周知しているが、普及については不十分。他市では高齢者世帯などへ補助金制度があるようだが市は。また、区内で災害時の支えあいマップづくりを進めているが補助金は社協からの5千円のみですべて区からの支出。飯田市では危機管理室でなく危機管理部として消防・日赤奉仕団などと連携して行っていた。市も危機管理室を部にし、予算もとって補助するなどして欲しい。

市長　住宅用火災報知器について、高齢者、寝たきりの世帯等については対応が必要と考えます。どんな対応ができるか検討・研究を防災・福祉の担当へ指示します。マップづくりについては目的に応じ、いろいろなものがありますが、各区でご努力いただいてよいマップができれば支援を考えていきます。区長会などを通して話し合いを持たせていただきたい。

子どもの教育

意見
○テレビやゲームばかりで外で遊ぶ子が少ない。体力的にも人間的にも弱い子が増えているのではないか。親も共働きで、帰ってくるまでの間、支援できる方法はないか。地区公民館の活用や、定年退職した男性の協力など子どもが豊かに育つ施策を。

教育長　ご指摘のとおり、今は子どもが生きにくい時代。私見ですが今ほど大人が身勝手な時代はないと考えます。大人がもう一度自分を見直す。忙しいだけでいいのか、子どもと向き合う時間は本当にないのか、大人がいかに生きているかが問われているのではないかと思います。子どもに一言でも声をかけられれば違うと考えます。教育委員会でも支援策として、本年度から「放課後子どもプラン」を全小学校で水曜日（穂高北小のみ木曜日）に実施しています。また、文部科学省の学校支援策へも参加を検討しているところです。このほか、講演会なども一つの方法として考えています。子どもが健やかに育つよう考えていきます。

公共交通

意見
○安曇野市のデマンド交通は、最近知事が試乗したりNHKで報道されたりと、住民ニーズにあった優れた施策として、全般的には評価されている。大変便利だと利用している人がいる反面、いつ来るか分からないから仕方なくタクシーを使った、ご主人の入所する施設が市外であることから自転車で行くしかなくなった等、利用しづらいという人もいる。市の施策として、交通弱者といわれる高齢者の足を確保していただくようお願いしたい。

市長　デマンド交通は交通弱者の交通手段を確保するためにスタートしているが、ご意見いただいた例のように、すべての人の要求には答えられないことがあります。タクシーとは違うので、ある程度時間に余裕を見ていただいて、システムに慣れていただくことが大事ではないかと考えています。今後もより良いシステムを目指します。

参加者インタビュー その1

太田 幸子さん（堀金中堀）

市役所本庁舎の建設について、公民館や敬老会への補助金も少なくなっている中、どうしても必要なのかと思い、発言させていただきました。必要性については分かりましたが、現在あって今後も使っていけるものは、うまく使って、借りるお金もなるべく少なくしていって欲しいと思いました。

土地利用

意見
○土地利用について県の理解は得られたが線引きを外すには国土交通省の許可が必要。しかし、外さなければ不適格な建物など不都合なことも多い。今後も努力していただけると思うが、豊科地域においては、現在の調整区域にせめて一般的な住宅程度は建てられるような制度になって欲しい。安曇野にふさわしい制度にして欲しい。

市長　土地利用制度は、かなり厳しいスケジュールで制度整備をしていくことになります。皆さんに相談しながらご理解を得られる内容にするよう努力しますのでご理解をお願いします。

バイオマス事業の今後

意見
○バイオマス事業として成相区・新田区のほか、穂高地域で行っている生ごみの回収は、主婦として大変助かっている。他の区では実施しないのか、同事業の今後の予定については。また、事業所・アパート居住者のごみの分別が不徹底。行政から改善・指導はできないか。生ごみや、分別をきちんとすることで建設を予定している最終処分場へ入るごみも減量できるのではないか。

市長　穂高広域施設組合の焼却施設は、平成6年から稼働し、将来、建て替え時には今よりも規模が小さくなります。バイオマス事業は、ごみの4割を占める生ごみを減らす実験事業として行っており、規模としては小さいものです。実験の評価は良好ですが、将来の実用化への結論は出ていません。後1年程度実験を継続していきます。実用可能となった場合は規模を大きくしなければなりません。このほか、生ごみの堆肥化も三郷の堆肥センターで検討しましたが、廃棄物処理法とのかかわり、臭気の問題もあり中断しています。事業系、アパートのごみも業者や近隣の人と話し合いながら対策を検討しています。市としていただいた意見と合わせてごみの処理方法を整理して整備を進めていきます。また、最終処分場については焼却灰専用の施設となります。

参加者インタビュー その2

市川 末登（すえと）さん（明科中川手）

都会などからの就農希望者や、若い担い手を育てるような取り組みとして、研修組織などの取り組みができないものだろうか。また、中山間地域で離農する人も多く、遊休農地が増えてきている現状から、市が間に入ってあっ旋するなどぜひ考えていってほしいと思います。

※市長と語る会の会議録は、地域支援課窓口で閲覧できるほか、概要は市ホームページでも公開します。

各会場で話題となったテーマ

堀金会場・・・区から消防団への補助／小学校の規模と通学区域／本庁舎建設／市財政と地域医療／少子化対策／村時代の財産評価／遊休荒廃農地対策など
三郷会場・・・温明中学校の記念碑建立／市の決算状況／国の経済対策／本庁舎建設／行政改革／男女共同参画／北小倉産廃中間処理施設／農業の将来／医療不安／公共交通／生活道路の寄付採納など
豊科会場・・・女性研修センターの設備／バイオマス／本庁舎建設／出土品の活用／市の借金／小学生の風紀／道路整備／遊休農地対策／防災対策／保育園建設／窓口対応／人間力／子どもの居場所など
明科会場・・・資材支給工事／市道認定／明科駅スカイドーム／本庁舎建設／農業担い手育成／遊休農地／松糸道路と優良農地／食育推進計画／押野山土取り跡地／タクシー利用券／犀川護岸工事など
穂高会場・・・支所と本庁の連携／市財政／市道の整備／本庁舎建設／市施設の維持管理と窓口対応／有害図書自販機／しゃくなげ荘の今後／公民館の体制など